

東京ドキュメンタリー映画祭 in OSAKAで上映 テレメンタリー2021「ポネオハウ-アイヌの私-」

2022年3月23日（水）

3月11日（金）、HTBが制作したテレメンタリー2021「ポネオハウ-アイヌの私-」（2021年2月20日（土）北海道ローカル放送、放送日違いで全国放送）が昨年12月に続き東京ドキュメンタリー映画祭 in OSAKAでも上映され、制作にあたった広瀬久美子ディレクターが舞台挨拶を行いました。東京ドキュメンタリー映画祭は、テレビ、映画、ネットの垣根を超えたドキュメンタリー作品が一同に会する映像祭で、4回目となる2021年は、過去最高となる200作品以上の応募作から、コンペティション部門長編10本、短編部門30本がスクリーンで上映されました。

広瀬久美子ディレクター コメント（報道情報局報道部）

昨年12月に続き、「東京ドキュメンタリー映画祭 in OSAKA」に参加しました。新宿の劇場よりも小さい会場。舞台挨拶では来場したお客さん一人一人と目が合うような、そんな距離感のアットホームな会でした。今回は同時上映された「カムイ レンカイネ」の酒井直之監督もオンラインで参加。さらに「ポネオハウ-アイヌの私-」の主人公、豊川純子さんが帯広から急きよ来場していただくことになり、観客の皆さんにとってはうれしいサプライズ。限られた時間ながらアフタートークは大変盛り上がりました。終了後もロビーでお客さんに囲まれ、質問を受けていた純子さん。後日、こんなメッセージをSNSで発信していました。（以下、一部抜粋）

自分のちょっとした行動が
遠いところで何かを変える可能性がある事
普段はその事にはあまり気付かないけど
今回は肌で感じる事ができました

目の前のリアルなお客さんに伝えるということ。テレビを通して伝えることとはまた違った貴重な体験でした。地上波から劇場へ。新たな表現にチャレンジしたいと、改めて強く思いました。



帯広から駆けつけてくれた豊川純子さんと



HTBは持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています



5 ジェンダー平等を
実現しよう



10 人や国の不平等
をなくそう



17 パートナースHIPで
目標を達成しよう

